

# Oracle® Application Server 10g for AIX-Based Systems and HP Tru64 UNIX

Forms and Reports Services リリース・ノート

10g (9.0.4)

2004 年 6 月

部品番号 : B13879-01

---

Oracle Application Server 10g Forms and Reports Services リリース・ノート, 10g (9.0.4) for AIX-Based Systems and HP Tru64 UNIX

部品番号 : B13879-01

原本名 : Oracle Application Server 10g Forms and Reports Services Release Notes 10g (9.0.4) for AIX-Based Systems and hp Tru64 UNIX

原本部品番号 : B13667-02

Copyright © 2004, Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されております。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

\* オラクル社とは、Oracle Corporation（米国オラクル）または日本オラクル株式会社（日本オラクル）を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation（米国オラクル）およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Notice が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

---

---

# 目次

はじめに .....	iii
<b>1 このインストール・タイプについて</b>	
このインストール・タイプの制限 .....	1-2
<b>2 このインストール・タイプで使用できる機能</b>	
Oracle Application Server Forms Services .....	2-2
Oracle Application Server Reports Services .....	2-2
Oracle HTTP Server .....	2-2
Oracle Application Server Web Cache .....	2-2
Oracle Application Server Containers for J2EE (OC4J) .....	2-2
Oracle Enterprise Manager .....	2-2
Oracle Process Manager and Notification Server (OPMN) .....	2-3
Distributed Configuration Management (DCM) .....	2-3
<b>3 ソフトウェアのインストールを開始する前に</b>	
Java SDK および Motif の要件 .....	3-2
<b>4 他の情報ソース</b>	
<b>5 一般的な問題</b>	
前提条件チェックによる同じ ORACLE_HOME への再インストールのブロック .....	5-2
<b>6 Oracle Application Server Forms Services リリース・ノート</b>	
一般的な問題とその対処方法 .....	6-2
アプリケーションの移行 .....	6-2
Tru64 UNIX での Oracle Enterprise Manager による共有メモリー使用率のゼロ表示 .....	6-2
Tru64 UNIX での OC4J Forms インスタンスの障害 .....	6-2
構成の問題とその対処方法 .....	6-2
Oracle Application Server Forms Services の問題 .....	6-2
Forms Services 9.0.2 からの移行前の Single Sign-On の無効化 .....	6-2
Oracle Application Server Forms Services の既知の不具合 .....	6-2
Oracle Forms Services ドキュメントの記載内容の誤り .....	6-2

## 7 Oracle Application Server Reports Services リリース・ノート

一般的な問題とその対処方法 .....	7-2
Tru64 UNIX 上の OPMN によるインプロセス Reports Server の構成 .....	7-2
Oracle Reports の統合 .....	7-2
Oracle9i JDeveloper の統合 .....	7-3
Oracle9i JDeveloper で JSP レポートをデバッグする際のデッドロック .....	7-3
Oracle9i JDeveloper で表示されないグラフ .....	7-3
Reports Server のセキュリティ .....	7-3
Tru64 UNIX での Reports 実行時の Java デバッグ・メッセージ .....	7-3
構成の問題とその対処方法 .....	7-3
AIX における addNewServerTarget.sh スクリプトを使用して追加した Reports Server の DISPLAY 値の 手動追加 .....	7-3
AIX におけるリリース 2 (9.0.2) からのアップグレード後の reports.sh の変更 .....	7-4
AIX におけるリリース 2 (9.0.2) からのアップグレード後の targets.xml の変更 .....	7-4
Tru64 UNIX におけるリリース 2 (9.0.2) からのアップグレード後の reports.sh の変更 .....	7-4
Oracle Application Server Reports Services の既知の不具合 .....	7-5
Oracle Reports Services ドキュメントの記載内容の誤り .....	7-5

## 8 アップグレードの問題

アップグレードに対する JDK の要件 .....	8-2
---------------------------	-----

---

# はじめに

Oracle Application Server 10g (9.0.4) Forms and Reports Services へようこそ。このドキュメントでは、Oracle Application Server 10g (9.0.4) Forms and Reports Services のインストール、構成および使用方法に関する固有の情報について説明します。このドキュメントは、次のような構成になっています。

- このインストール・タイプについて
- このインストール・タイプで利用できる機能
- ソフトウェアのインストールを開始する前に
- 他の情報ソース
- 一般的な問題
- Oracle Application Server Forms Services リリース・ノート
- Oracle Application Server Reports Services リリース・ノート
- アップグレードの問題



---

## このインストール・タイプについて

Oracle Application Server Forms and Reports Services では、Forms/Reports Services をインストールおよび構成する際に、Oracle Application Server 10g のすべてのコンポーネントをインストールおよび構成する必要はありません。

このインストール・タイプは、次の2つのフェーズで、Forms アプリケーションをグリッド環境にアップグレードすることを検討されているユーザーに最も適しています。フェーズ1では、クライアント/サーバー・ベースの Forms アプリケーションを Web ベースの Forms アプリケーションにアップグレードすることによって、グリッド環境に移行します。フェーズ2では、インストール済の Oracle Application Server インフラストラクチャによって提供されるサービスを、必要に応じて使用可能にします。

## このインストール・タイプの制限

Oracle Application Server Forms and Reports Services では、Single Sign-On や Identity Management との統合などのインフラストラクチャ・サービスは使用できません。ただし、Business Intelligence and Forms インストール・タイプでは、インフラストラクチャ・サービスを使用できます。

さらに、このタイプでは、いったんインストールしたら、後でインフラストラクチャと関連付けたり、リンクすることもできません。

インフラストラクチャの機能を利用する場合は、Business Intelligence and Forms インストール・タイプで Oracle Application Server のインスタンスをインストールし、アプリケーションをこの新しいインストールに移行する必要があります。

---

## このインストール・タイプで使用できる機能

Oracle Application Server Forms and Reports Services をインストールすると、次の機能を利用できるようになります。

- [Oracle Application Server Forms Services](#)
- [Oracle Application Server Reports Services](#)
- [Oracle HTTP Server](#)
- [Oracle Application Server Web Cache](#)
- [Oracle Application Server Containers for J2EE \(OC4J\)](#)
- [Oracle Enterprise Manager](#)
- [Oracle Process Manager and Notification Server \(OPMN\)](#)
- [Distributed Configuration Management \(DCM\)](#)

## Oracle Application Server Forms Services

Oracle Application Server Forms Services を使用すると、Web 環境にある Java クライアントに対して、データベース・アクセスを伴う Forms アプリケーションを配布できます。Oracle Application Server Forms Services では、クラスのダウンロード、ネットワークの通信量および Oracle データベースとの相互作用が自動的に最適化されます。アプリケーションは複数のサーバー間で自動的にロード・バランシングされるため、サービスはリクエスト数の増減に容易に対応できます。

## Oracle Application Server Reports Services

Oracle Application Server Reports Services は、使いやすくスケーラブルで、管理の容易なソリューションなので、Web や企業全体を対象に動的なレポートを作成することで、データベース内容の公開やレポート作成を高品質に行うことができます。これによって、レポートを実行する複数層のアーキテクチャを実装できます。

## Oracle HTTP Server

Oracle HTTP Server は Oracle Application Server が使用する Web サーバーで、Apache Web サーバー・テクノロジーに基づいて構築されています。Oracle HTTP Server では、優れたスケーラビリティ、安定性、スピードおよび拡張性が実現しています。また、Java サーブレット、Java Server Pages (JSP)、Perl、PL/SQL、CGI などのアプリケーションもサポートされます。

## Oracle Application Server Web Cache

Oracle Application Server Web Cache はサーバー・アクセラレータのキャッシュ・サービスで、これを使用すると、Oracle プラットフォーム上で稼動する、頻繁に使用される Oracle E-Business 用 Web サイトのパフォーマンス、スケーラビリティおよび可用性が向上します。Oracle Application Server Web Cache では、頻繁にアクセスする URL が仮想メモリーに格納されるため、そのような URL に対するリクエストを Web サーバー上で繰り返し処理する必要がなくなります。また、1 つ以上の Web アプリケーション・サーバーから静的および動的に作成された HTTP コンテンツの両方がキャッシュに格納されます。

## Oracle Application Server Containers for J2EE (OC4J)

Oracle Application Server Containers for J2EE は、すべてが Java で書かれた J2EE コンテナの完全なセットで、標準 Java Development Kit (JDK) の Java Virtual Machine (JVM) 上で実行されます。

## Oracle Enterprise Manager

Oracle Enterprise Manager Application Server Control (以降、Application Server Control と表記) には、Oracle Application Server のインスタンスの監視と管理に必要な管理ツールが用意されています。Application Server Control は、Oracle Application Server のすべてのインスタンスとともにインストールされます。

Application Server Control は、Oracle Application Server 専用に設計された Web ベースの管理ツールです。Application Server Control を使用して、アプリケーション・サーバーのコンポーネントを監視および構成できます。アプリケーションの配布、セキュリティの管理および Oracle Application Server クラスタの作成と管理を実行できます。

Application Server Control は、次のもので構成されます。

- Oracle Application Server とそのコンポーネントの管理に使用する Enterprise Manager の Home ページ。これらの Web ページによって、Oracle Application Server 環境を高いレベルで見ることができます。これらのページから、管理、構成およびパフォーマンスの監視に関して、より詳細な情報へとドリルダウンできます。これらのページを使用すると、アプリケーション・サーバーとそのコンポーネントおよび配布されたアプリケーションを管理できます。
- アプリケーション・サーバーのインスタンスとコンポーネントのトラッキングを行うための、基盤となるソフトウェア・テクノロジー。これらのテクノロジーによって、数多くの管理タスクが自動的に実行されます。たとえば、各アプリケーション・サーバーのインスタンスのコンポーネントの検出や、パフォーマンス・データの収集と処理が行われ、アプリケーション構成情報にアクセスできます。

Application Server Control のインストールは、Oracle Application Server のインストール処理の一環として実行されます。

## Oracle Process Manager and Notification Server (OPMN)

Oracle Process Manager and Notification Server (OPMN) では、アプリケーション・サーバーのインスタンスとそのコンポーネントに対して、プロセスの制御と監視が実行されます。また、コンポーネントのステータス情報が収集され、その情報に関連するコンポーネントに配布されます。Application Server Control は OPMN を使用して、アプリケーション・サーバーのインスタンスの各コンポーネントの起動と停止などのタスクを実行します。

## Distributed Configuration Management (DCM)

Distributed Configuration Management (DCM) では、共通の Metadata Repository に関連付けられているアプリケーション・サーバーの複数のインスタンス間で、その構成が管理されます。DCM によって、Oracle Application Server クラスタ全体にアプリケーションを配布できるようになったため、アプリケーションを 1 つのインスタンスに配置するだけで、クラスタ全体に自動的に伝播させることができます。また、1 つのインスタンスに対してホスト構成またはインスタンス構成を少しでも変更すると、クラスタ内のすべてのインスタンスにその変更が伝播されます。Application Server Control は DCM を使用して、構成を変更し、構成変更と配布されたアプリケーションをクラスタ全体に伝播します。



---

## ソフトウェアのインストールを開始する前に

ソフトウェアのインストールを開始する前に、次のドキュメントに目を通してください。

1. 最初にこのドキュメントを参照してください。ここでは、Oracle Application Server Forms and Reports Services のリリース・ノートが記載されています。
2. Oracle Application Server 10g Forms and Reports Services のインストレーション・ガイドを参照してください。

このドキュメントでは、このインストール・タイプをインストールするに際して知っておくべき内容と、実行が必要となる項目を説明しています。

3. Oracle Forms R6i から Oracle Forms 10g にアップグレードする場合は、ホワイト・ペーパー『Oracle9i Forms: 廃止される機能』(<http://otn.oracle.co.jp/products/forms/>) を参照してください。

## Java SDK および Motif の要件

このリリースの Oracle Application Server 10g には、Java SDK 1.4.2-3、および特殊なバージョンの Motif 2.1 が必要です。このソフトウェアは、次の URL からダウンロードできます。

<http://h18012.www1.hp.com/java/download/unix/1.4.2/index.html>

この URL に更新があったかどうかについては、<http://otn.oracle.co.jp/document/> にあるリリース・ノート of the latest version を参照してください。

---

## 他の情報ソース

追加情報を参照できるソースには、次のものがあります。

- Oracle Forms Developer、Oracle Reports Developer および Oracle Enterprise Manager のオンライン・ヘルプ
- 『Oracle Application Server Forms Services 利用ガイド』
- Oracle Application Server 10g Forms and Reports Services アップグレード・ガイド
- 『Oracle Application Server Reports Services レポート Web 公開ガイド』
- 『Oracle Application Server 10g 概要』
- 『Oracle Application Server 10g 管理者ガイド』
- Oracle Application Server 10g リリース・ノート
- Oracle Technology Network Japan (<http://otn.oracle.co.jp/>)



# 5

---

## 一般的な問題

この章では、このインストール・タイプに固有の一般的な問題について説明します。

## 前提条件チェックによる同じ ORACLE\_HOME への再インストールのブロック

現時点では、同じ ORACLE\_HOME に Forms/Reports Services を再インストールすることは、Oracle Universal Installer (OUI) によってブロックされています。

インストールに失敗したなどの理由で同じ Oracle ホームに再インストールする必要がある場合は、最初に OUI の「ようこそ」ページで「製品の削除」をクリックして、製品を削除する必要があります。対象の ORACLE\_HOME に対応するチェック・ボックスを選択します。次に、「削除」をクリックして、「確認」ページで「はい」をクリックします。

削除が終わったら、再インストールの手順に進みます。「ファイルの場所の指定」ページで、同じ ORACLE\_HOME を選択します。対象の ORACLE\_HOME が中央インベントリに登録されていないという警告メッセージが表示される場合があります。「はい」をクリックして、インストールを続けます。

# 6

---

## Oracle Application Server Forms Services リリース・ノート

この章は、次の項で構成されています。

- 一般的な問題とその対処方法
- 構成の問題とその対処方法
- Oracle Application Server Forms Services の問題
- Oracle Application Server Forms Services の既知の不具合
- Oracle Forms Services ドキュメントの記載内容の誤り

## 一般的な問題とその対処方法

この項では、一般的な問題について説明します。

### アプリケーションの移行

Oracle Application Server 10g Forms and Reports Services インストール・タイプに移行した場合、9.0.2 の Oracle Forms アプリケーションを再コンパイルする必要はありません。

### Tru64 UNIX での Oracle Enterprise Manager による共有メモリー使用率のゼロ表示

Oracle Enterprise Manager の「Forms ユーザー・セッション」ページでは、共有メモリーの使用率がゼロに表示されます。つまり、nmb ユーティリティの出力が、fo ex. 0.0000 と表示されます。この値は間違いですが、メモリーの総使用率はプライベート・メモリーの出力値ごとに報告されます。つまり、プライベート・メモリーの使用率として表示される値は、プライベート・メモリーの使用率と共有メモリーの使用率の合計になります。

### Tru64 UNIX での OC4J Forms インスタンスの障害

osagent プロセスが同じサブネットで実行されていない場合、OC4J Forms インスタンスは正常に動作しません。対策としては、opmn.xml ファイルで pingserver コマンドを無効にする方法があります。この問題と他の対処方法の詳細は、不具合 3557723 を参照してください。

## 構成の問題とその対処方法

詳細は、Oracle Application Server 10g リリース・ノートの第7章を参照してください。

### Oracle Application Server Forms Services の問題

次の項では、このインストール・タイプに固有の Forms Services の問題について説明します。

#### Forms Services 9.0.2 からの移行前の Single Sign-On の無効化

Single Sign-On (SSO) を搭載した 9.0.2 から Oracle Application Server 10g Forms and Reports Services に移行した場合は、このインストール・タイプでアプリケーションを実行できるように、formsweb.cfg ファイルのパラメータ ssoMode を false に設定する必要があります。

### Oracle Application Server Forms Services の既知の不具合

詳細は、Oracle Application Server 10g リリース・ノートの第7章を参照してください。

### Oracle Forms Services ドキュメントの記載内容の誤り

詳細は、Oracle Application Server 10g リリース・ノートの第7章を参照してください。

---

# Oracle Application Server Reports Services リリース・ノート

この章は、次の項で構成されています。

- [一般的な問題とその対処方法](#)
- [構成の問題とその対処方法](#)
- [Oracle Application Server Reports Services の既知の不具合](#)
- [Oracle Reports Services ドキュメントの記載内容の誤り](#)

## 一般的な問題とその対処方法

この項では、このインストール・タイプの Reports Services に関する一般的な問題とその対処方法について説明します。

### Tru64 UNIX 上の OPMN によるインプロセス Reports Server の構成

OPMN によってインプロセス Reports Server を自動管理するには、インストール後に次の手順を実行します。

1. サブネットで Visibroker Smart Agent (osagent) を起動します。Tru64 UNIX では Visibroker を使用できません。osagent 実行可能ファイルは、Oracle10g、Oracle9i リリース 2 Application Server、Developer Suite の各インストールににあります。

---

**注意：** Oracle Reports Services に osagent を実行する場合、処理能力が特に優れたコンピュータは必要ありません。

---

2. opmn.xml ファイルを変更して、インプロセス Reports Server が自動的に起動されるようにします。opmn.xml ファイルの OC4J\_BI\_Forms セクションに pingserver エントリがあること、およびその start パラメータが auto に設定されていることを確認します。次に例を示します。

```
<category id="urlping-parameters">
<data id="/reports/rwservlet/pingserver?start=auto" value="200"/>
</category>
```

---

**注意：** OPMN を使用してインプロセス Reports Server の自動起動を設定する場合は、Visibroker Smart Agent (osagent) が存在し実行されている必要があります。osagent が見つからない場合、インプロセス Reports Server は起動されず、OC4J\_BI\_Forms インスタンスは継続的な再起動ループに陥ります。これは、Forms や Oracle Application Server Personalization など、OC4J\_BI\_Forms を使用する他のコンポーネントに影響します。

この状況が発生した場合またはインプロセス Reports Server が原因で OC4J\_BI\_Forms インスタンスが不安定になった場合は、opmn.xml ファイルから pingserver エントリを削除してください。たとえば、opmn.xml ファイルに次のようなセクションがある場合は、それを削除します。

```
<category id="urlping-parameters">
<data id="/reports/rwservlet/pingserver?start=auto" value="200"/>
</category>
```

これによって、OC4J\_BI\_Forms インスタンスが継続的な再起動ループに陥る事態は避けられます。OPMN による Reports Server の構成の詳細は、『Oracle Application Server Reports Services レポート Web 公開ガイド』を参照してください。

---

### Oracle Reports の統合

Oracle Application Server Single Sign-On、Oracle Internet Directory、OracleAS Portal、OracleAS Discoverer、Oracle OLAP Server、Oracle Workflow および Oracle Wireless と Oracle Reports の統合は、このリリースの Oracle Application Server Forms and Reports Services では機能しません。

## Oracle9i JDeveloper の統合

次の項では、このインストール・タイプでの、Reports Services と Oracle9i JDeveloper との統合について説明します。

### Oracle9i JDeveloper で JSP レポートをデバッグする際のデッドロック

JDeveloper で OracleAS Reports Services JSP をデバッグする場合は、ソース・タイプではないブレークポイントを無効にする必要があります。これらのブレークポイントを無効にしないとデッドロックが検出されます。ソース・タイプでないブレークポイントは「ブレークポイント」ウィンドウで無効化できます。

### Oracle9i JDeveloper で表示されないグラフ

JDeveloper で `rw:graph` タグのある JSP レポートを実行すると、そのイメージがブラウザに表示されません。この問題を解決するには、`ORACLE_HOME/reports/conf` にある `rwervlet.properties` ファイルで、`IMAGEURL` を次のように設定します。

```
IMAGEURL=http://host:port/Workspace-Project-context-root/servlet/oracle.reports.rwclient.RWClient
```

## Reports Server のセキュリティ

このインストール・タイプのデフォルトでは、Oracle Reports Services はセキュアではありません。

## Tru64 UNIX での Reports 実行時の Java デバッグ・メッセージ

`rwconverter` や `rwrund` などの Reports プログラムを実行しているときに、次のようなデバッグ・メッセージが表示されることがあります。

```
exit set--- address
```

`address` は、`203bde0` などのランダムなメモリー・アドレスです。これらのメッセージは Java 1.4.2 の既知の不具合が原因で、無視しても問題ありません。

## 構成の問題とその対処方法

詳細は、Oracle Application Server 10g リリース・ノートの該当する章を参照してください。

## AIX における addNewServerTarget.sh スクリプトを使用して追加した Reports Server の DISPLAY 値の手動追加

`addNewServerTarget.sh` スクリプトを使用して、Oracle Application Server 10g (9.0.4) Business Intelligence and Forms インストールおよび Oracle Application Server (9.0.4) Forms and Reports Standalone インストールに、`opmn.xml` ファイルに Reports Server を追加する場合、AIX では Reports Server の DISPLAY 値を手動で追加する必要があります。

手動追加しない場合は、その Reports Server を使用してレポートを実行しようとしたときに、次のようなエラー・メッセージが表示されます。

```
REP-3000: Toolkit の起動中に内部エラーが発生しました。
```

DISPLAY 値を手動で追加する手順は次のとおりです。

1. `$ORACLE_HOME/opmn/conf` ディレクトリに移動します。
2. `opmn.xml` ファイルのバックアップを取ります。
3. `opmn.xml` ファイルの新しい Reports Server に対する構成セクションに、`<variable id="DISPLAY"` で始まる新しい行を追加します。次の例を参考にしてください。ここで、`reportserver_name` は Reports Server の名前、`display_value` は DISPLAY の値です。

```
<process-type id="ReportsServer" module-id="ReportsServices">
  <process-set id="reportserver_name" restart-on-death="true" numprocs="1">
    <environment>
```

```

    <variable id="DISPLAY" value="display_value"/>
    <variable id="PATH" value="/project1/AS10g/FR_STANDALONE_M23_
MAR08/ohome/bin:/usr/bin:/etc:/usr/sbin:/usr/ucb:/usr/bin/X11:/sbin:/usr/java130/jre/bin:/u
sr/java130/bin:/usr/bin:/bin"/>

```

4. 次のコマンドを使用して、opmn.xml ファイルを再ロードします。

```
$ $ORACLE_HOME/opmn/bin/opmnctl reload
```

5. 次のコマンドを使用して、Reports Server をいったん停止してから再起動します。

```
$ $ORACLE_HOME/opmn/bin/opmnctl stopproc ias-component=reportserver_name
$ $ORACLE_HOME/opmn/bin/opmnctl startproc ias-component=reportserver_name
```

6. テスト・レポートを実行できることを確認します。次に例を示します。

```
http://mydomain.com:7782/reports/rwservlet?destype=cache&desformat=html&server=reportserver_name&report=test.rdf&userid=scott/tiger@twotask
```

## AIX におけるリリース 2 (9.0.2) からのアップグレード後の reports.sh の変更

9.0.2 中間層 (Business Intelligence または Unified Messaging) を Oracle Application Server 10g Forms and Reports Services 10g (9.0.4) にアップグレードする場合は、AIX で Reports 実行可能ファイルを実行する前に、次の手順を完了してください。

1. reports.sh ファイルに次の行を追加します。

```
TK90_ICON=$ORACLE_HOME/reports/plugins/resource; export TK90_ICON
REPORTS_DEFAULT_DISPLAY=NO; export REPORTS_DEFAULT_DISPLAY
LDR_CNTRL=MAXDATA=0x80000000; export LDR_CNTRL
```

2. reports.sh ファイルに次の行がある場合は削除します。

```
export IBM_JAVA_OPTIONS="-Dcom.ibm.CORBA.POACompatibilityMode=true"
```

## AIX におけるリリース 2 (9.0.2) からのアップグレード後の targets.xml の変更

9.0.2 中間層 (Business Intelligence または Unified Messaging) を Oracle Application Server 10g Forms and Reports Services 10g (9.0.4) にアップグレードする場合は、Oracle Enterprise Manager が AIX で Reports Server を正常に監視できるように、次の作業を完了する必要があります。

addNewServerTarget.sh スクリプトを実行すると、targets.xml ファイルに各 Reports Server 用のセクションが追加されます。このセクションに含まれる Reports Server の rwservlet URL に対する Apache ポート番号が、不正確な可能性もあります。

次に例を示します。

```
<Property NAME="Servlet" VALUE="http://machine_name:port_number/reports/rwservlet"/>
```

port\_number の値が、各 Reports Server に対して正確であるかどうかを確認します。必要に応じて、その値を 9.0.2 中間層インストールの Apache ポートに変更します。アップグレード後は、9.0.2 中間層インストールのポートが使用されるためです。

targets.xml ファイルに含まれている Reports Server の URL が不正確な場合に、Oracle Enterprise Manager を使用して Reports Server のページにアクセスすると、その Reports Server のステータス表示が不正確となり、一部のメトリックとデータが「使用不可」と表示されます。

## Tru64 UNIX におけるリリース 2 (9.0.2) からのアップグレード後の reports.sh の変更

9.0.2 中間層 (Business Intelligence または Unified Messaging) を Oracle Application Server 10g Forms and Reports Services 10g (9.0.4) にアップグレードする場合は、Reports 実行可能ファイルを実行する前に、次の手順を完了してください。

1. \$ORACLE\_HOME/bin/reports.sh ファイルで、次のセクションを検索します。

```
## Compaq Tru64 settings (OSF1)
```

```

elif [ `uname -s` = 'OSF1' ]
then

LD_LIBRARY_PATH=$ORACLE_HOME/jdk/jre/lib/alpha:$ORACLE_HOME/jdk/jre/lib/alpha/cl
assic:$ORACLE_HOME/jdk/jre/lib/alpha/native_threads:$ORACLE_HOME/lib:${LD_LIBRAR
Y_PATH}; export LD_LIBRARY_PATH

```

```

## Default settings

```

2. ステップ 1 で検索したセクションを削除し、その場所に次のセクションを挿入します。

```

## Compaq Tru64 settings (OSF1)
elif [ `uname -s` = 'OSF1' ]
then

LD_LIBRARY_PATH=$ORACLE_HOME/jdk/jre/lib/alpha:$ORACLE_HOME/jdk/jre/lib/alpha/fast:$ORACLE_
HOME/jdk/jre/lib/alpha/native_threads:$ORACLE_HOME/lib:${LD_LIBRAR
Y_PATH}; export LD_LIBRARY_PATH

#Adding command uac p noprint avoid unaligned messages
/bin/uac p noprint

#Set the following variable to use Motif 2.1 with JDK 142.
_JAVA_AWT_USE_MOTIF_2_1=1; export _JAVA_AWT_USE_MOTIF_2_1

## Default settings

```

## Oracle Application Server Reports Services の既知の不具合

詳細は、Oracle Application Server 10g リリース・ノート、Oracle Reports に関する章を参照してください。

## Oracle Reports Services ドキュメントの記載内容の誤り

詳細は、Oracle Application Server 10g リリース・ノート、Oracle Reports に関する章を参照してください。



---

## アップグレードの問題

この章は、次の項で構成されています。

- [アップグレードに対する JDK の要件](#)

## アップグレードに対する JDK の要件

リリース 2 (9.0.2.01) の Business Intelligence and Forms から Oracle Application Server 10g Forms and Reports Services 10g (9.0.4) へのアップグレードは、Oracle Application Server 10g Forms and Reports Services アップグレード・ガイドを参照してください。アップグレードを実行する前に、システムに JDK 1.3.1 SR6 がインストールされていることを確認してください。